

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 6	5	百日咳	↘ 0	1
RSウイルス感染症	↗ 149	128	ヘルパンギーナ	↘ 8	20
咽頭結膜熱	↘ 8	9	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↗ 5	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 70	45	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 218	202	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 7	6
水痘	↗ 50	42	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↗ 43	35	無菌性髄膜炎	↗ 4	0
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 0	4	マイコプラズマ肺炎	↗ 3	1
突発性発しん	→ 41	41	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↘ 0	1

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- RSウイルス感染症
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
熊本市保健所		73	3	32	29	15	3		16			1		7		4	1		
山鹿保健所					12	1	1		1		1		*	*					
菊池保健所		17	3	5	48	5	19		7		2								
阿蘇保健所					2								*	*			1		
御船保健所		4		1	19	1							*	*					
八代保健所		5		3	26	12	5		4										
水俣保健所		7			2				1				*	*			1		
人吉保健所		8		18	18	9	12		1			2	*	*					
有明保健所		1	1	4	30	6	2		4		2								
宇城保健所		6	32	1	2	20		1	1				*	*					
天草保健所		2		5	12	1			6		3	2							
計	6	149	8	70	218	50	43	0	41	0	8	5	0	7	0	4	3	0	0

年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

インフルエンザ定点	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	6					1							4									
小児科定点年齢	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
RSウイルス感染症	149	13	23	81	26	3	2	1														
咽頭結膜熱	8		1	3		1	2	1														
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	70	1		2	4	3	8	9	7	9	5	4	13									
感染性胃腸炎	218	2	21	36	8	19	22	18	11	13	8	9	33	7	11							
水痘	50	1	5	12	7	10	6	4	3			2										
手足口病	43		3	14	13	3	4	2	4													
伝染性紅斑	0																					
突発性発しん	41	1	16	23	1																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	8		3	1	2					1			1									
流行性耳下腺炎	5			1				1	1	2												
眼科定点年齢区分	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	7					1									2	1	2	1				
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	4	2							1		1											
マイコプラズマ肺炎	3			1	1					1												
クラミジア肺炎	0																					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0																					

先週、RSウイルス感染症の報告数は減少していましたが、今週は再び増加しています。例年、流行のピークは9月～10月頃ですが、1月～2月にかけての冬季まで発生がみられますので、今の季節はまだまだ注意が必要です。

RSウイルス感染症に対しては特効薬がなく、治療は安静や点滴などの対処療法のみですので、予防が大切になります。特に、生後6ヶ月以内のお子さんが初めて感染した場合や低出生体重児、心臓や肺などに基礎疾患を持っているお子さんが感染した場合は重症化の危険性が高まりますので、感染しないように注意が必要です。RSウイルス感染症は、感染した人の咳やくしゃみのしぶきからうつる場合(飛沫感染)と、感染した人との濃厚接触や手指・ドアノブ等を介して感染する場合(接触感染)があります。小さいお子さんのいらっしゃるご家庭や、基礎疾患をお持ちのお子さんに接する方は、以下の予防対策をしっかりと行うようにしてください。

RSウイルス感染症
～予防のポイント
は手洗いと咳エチケット～

感染予防対策

- 流行期には赤ちゃんを人ごみに連れて行かない。
- 咳やくしゃみなどの症状のある方は咳エチケット(マスク着用、咳をするときは口や鼻を覆うなど)を守る。
- 外出後の手洗いをきちんと行う。
- 子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはアルコールや塩素系の消毒剤で消毒する。

